令和２年度　熊谷スマートシティ推進協議会

令和３年3月26日
熊谷スマートシティ推進協議会

次第

① 開会
② 熊谷スマートシティ実行計画の更新について
③ 来年度の市の予算化事業
④ 国土交通省スマートシティ先行モデル事業へ応募する実証実験案
⑤ 令和３年度の取組
⑥ 閉会

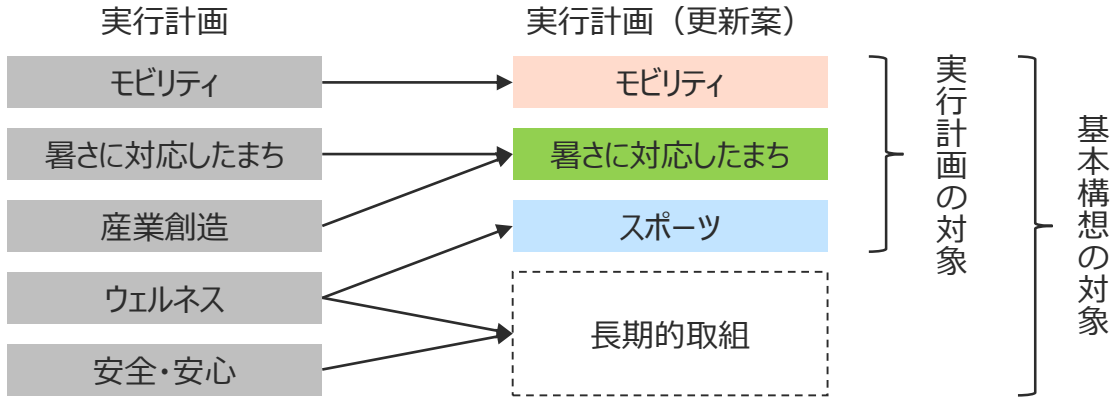
① 開会

②　熊谷スマートシティ実行計画の更新について

熊谷スマートシティ実行計画の更新（案）の概要

- 令和２年3月において、熊谷スマートシティ実行計画を策定し、令和２年度スマートシティ重点促進化プロジェクトに選定された。その後、令和２年３月31日に内閣府より提示された「スマートシティリファレンスアーキテクチャホワイトペーパー」への準拠やスマートシティ構築推進のため、実行計画の精緻化・具体化を実施した。

実行計画更新の目的	更新ポイント
「スマートシティリファレンスアーキテクチャホワイトペーパー」への準拠	• 国土交通省が規定する「実行計画」に記載すべき項目を踏まえつつ、リファレンスアーキテクチャに準拠するため、特に下記の事項について再整理を実施。 ✓ スマートシティ戦略 ✓ 都市マネジメント
スマートシティ構築推進のための精緻化・具体化	• スマートシティにより解決すべき課題・施策の全体像を網羅的に整理し、熊谷市におけるスマートシティ推進にあたっての長期的な指針として「熊谷スマートシティ基本構想」を作成 • 基本構想で示す取り組み分野のうち、３～５年での実装を目指す短期・中期的な計画として「熊谷スマートシティ実行計画」を位置付け



②－１　熊谷スマートシティ基本構想（案）

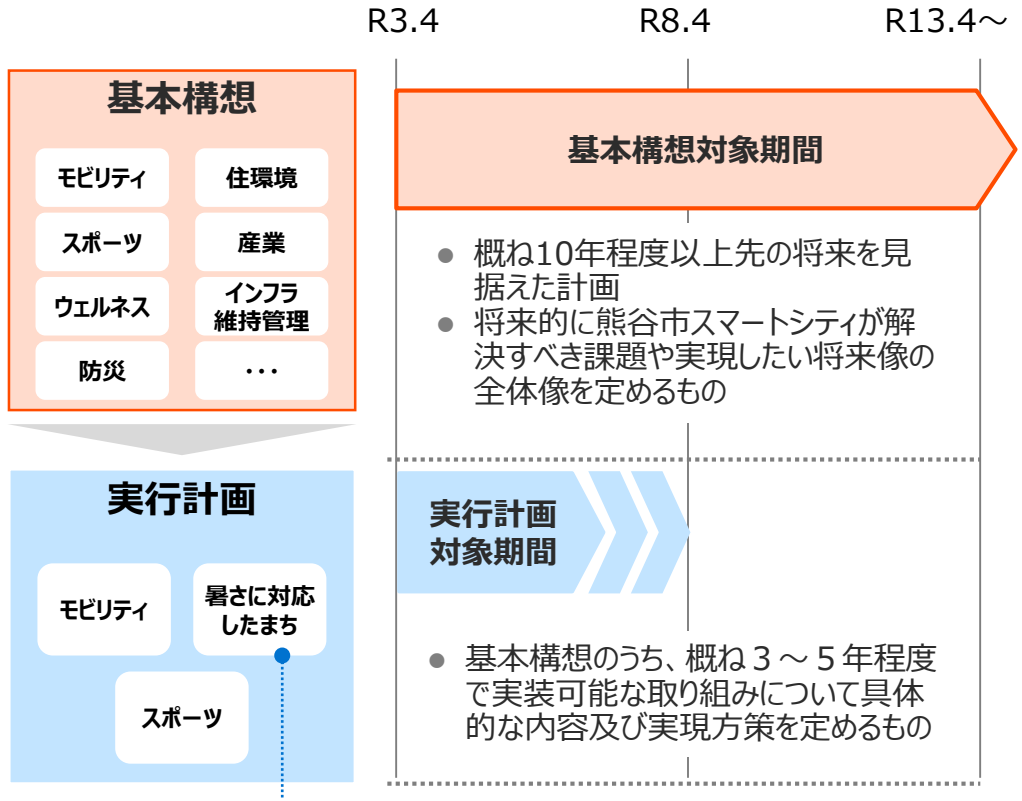
1．基本構想の位置づけ

- 基本構想は、中長期的にスマートシティに係る取り組みを推進することで都市課題の解決を図るための指針を示すものとして位置付け。
- 基本構想には中長期的に市全域で取り組むべき事項を、実行計画には３～５年後の実装を見据えた短期的な取り組みについて整理するものとして整理。

基本構想の背景及び目的

- 熊谷市では、人口減少・少子高齢化への対応や日本一暑いまちでの快適な暮らしの環境を提供することで、さらなる生活の質の向上と魅力的なまちづくりを行うことが求められている。
- これらの都市課題の解決のためのツールとしてスマートシティの推進に向けた取り組みが展開されつつあり、令和２年３月には公・民・学・金の17団体（現在は19団体）で構成される「熊谷スマートシティ推進協議会」が設立された。
- また、令和２年７月には、国土交通省が実施する「スマートシティモデル事業」において、「重点事業化促進プロジェクト」に選定され、実装に向けたより具体的な検討を進めてきた。
- 本基本構想は、これらの背景を踏まえ、先進的な技術を活用し、地域の課題の解決を図るとともに快適性や利便性を備えたまちづくりを行うための総合的な指針として策定するものである。

基本構想と実行計画の関係性



実行計画においては、暑さに対応したまちとして、基本構想のうち「住環境」「ウェルネス」「産業」の取組を一体的に実施する。

2．スマートシティにより解決すべき課題・施策の全体像

■区域の目標

「暑さに対応した持続可能な都市を実現するスマートシティ」

- ✓ 熊谷市は暑さ日本一のまちとして、生活の様々な場面で暑さによる課題に直面している。暑さに負けず、快適に、楽しく、いきいきと暮らせるまちづくりをすることで、人口減少の抑制を実現する。
- ✓ 人口減少社会においても持続可能な都市経営を行うため、都市の維持管理などの効率化や安全・安心を実現する。

■区域の課題～施策

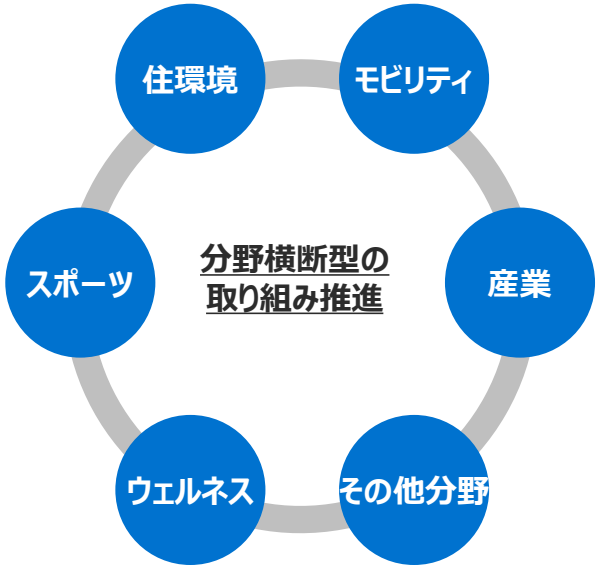
※施策は決定したものではなく、地域の課題や導入可能な技術を見据えながら、本構想に記載されている施策以外の取組についても柔軟に検討する。

課題			大目標	中目標	小目標	施策の例
人口減少時代における都市経営	日本一の暑さ	× モビリティの課題	✓ 暑さに負けず、快適に、楽しく、いきいきと暮らせるまち（＝若い世代は快適に楽しく、高齢者は健康でいきいきと暮らすことで人口減少が抑制された持続可能な都市） ✓ 人が集い活力ある産業が育つ競争力のあるまちの形成	✓ 暑い中でも快適で暮らしやすいまちの形成を実現する地域公共交通の構築	✓ 暑い時期の屋外の移動時間を短縮	✓ 需要に応じた柔軟な交通サービスの提供 ✓ パーソナルモビリティの活用
		× 住環境の課題		✓ 暑い中でも健康で快適に過ごせるエネルギー効率の高いまちの形成	✓ 屋内・屋外の環境情報や危険情報を把握 ✓ 再生可能エネルギーの導入	✓ 都市環境のセンシング・可視化 ✓ スマート住宅・公共施設 ✓ ミニマムグリッドによる効率化
		× 産業の課題		✓ 農業生産性向上	✓ 農業の効率化 ✓ 農業産出額増大	✓ リモートファーミング ✓ 水位センサーの活用
		× スポーツの課題		✓ 暑い中でも安全にスポーツを楽しむことのできるまちの形成	✓ 熱中症リスクを回避しながらスポーツを楽しめる環境 ✓ スポーツと周辺市街地の連携	✓ 遠隔スポーツ観戦環境 ✓ 回遊性向上アプリ
		× ウェルネスの課題		✓ 生活習慣の改善により健康に暮らせるまちの形成	✓ 高齢者の熱中症リスクを把握・対処 ✓ 行動変容による健康増進	✓ 個人最適化されたヘルスケアアプリ
	持続可能性	× インフラ維持管理の課題	✓ 人口減少社会においても持続可能な都市経営	✓ 効率的なアセットマネジメントの実現	✓ 効率的なインフラ点検方法の確立 ✓ 維持管理の効率化	✓ ドローンによる点検 ✓ AI・画像診断による点検 ✓ データを活用した維持管理
		× 防災の課題		✓ 災害時の被害を最小限に抑制できるまちの形成	✓ 最適な避難所への誘導	✓ 防災関連情報の一元化・可視化 ✓ 避難情報を取得可能なアプリ
		× 行政運営の課題		✓ 効率的・効果的な行政運営の実現と公共サービスの提供	✓ 行政DXの推進	✓ RPAの導入 ✓ 市民向けポータル/アプリ

3．基本構想の推進に向けて

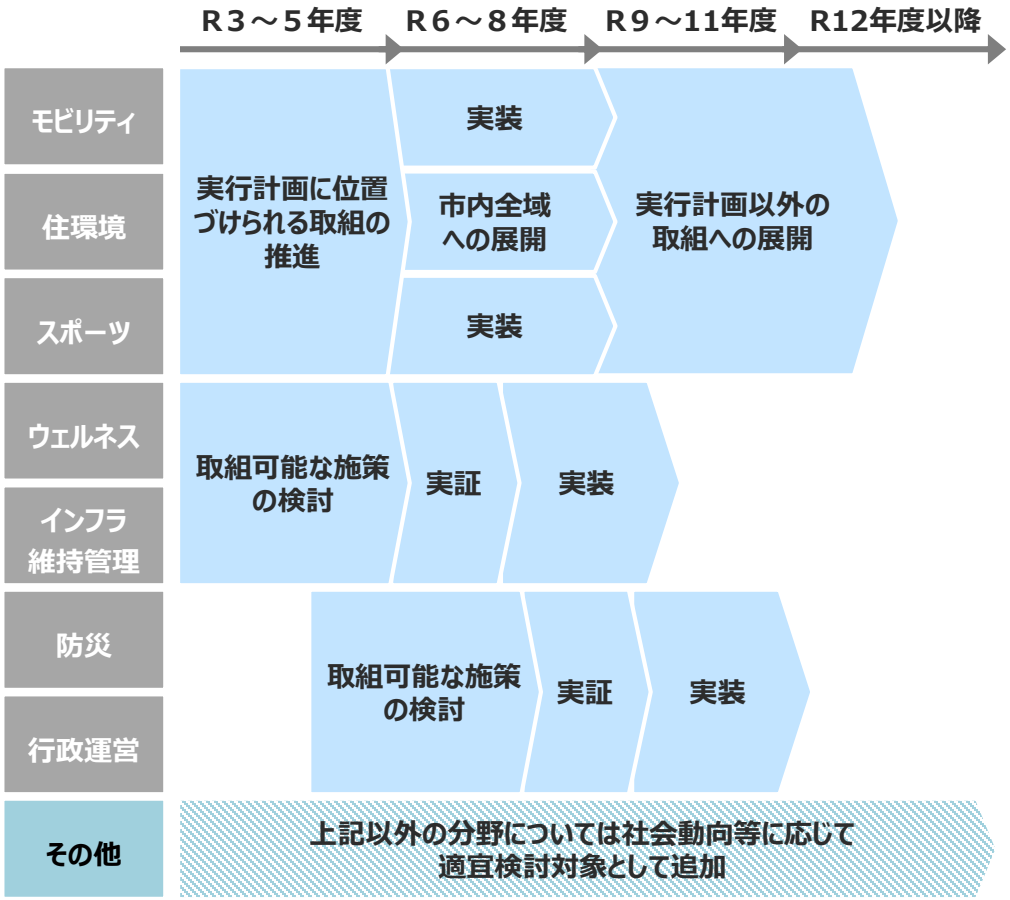
- 基本構想の実現に向け、多様な主体との連携により分野横断型の取り組みを推進する。
- 多様な主体との連携にあたっては、熊谷スマートシティ推進協議会が中心となって体制を構築する。
- 令和12年度以降を見据え、実証実験を実施しつつ実装を進めていく。

多様な主体との連携による分野横断型の取り組みの推進



熊谷スマートシティ推進協議会が中心となった多様な主体との連携

ロードマップ



②－２　熊谷スマートシティ実行計画（更新案）

熊谷スマートシティ実行計画（更新案）の構成

	項目	概要
1	基本事項	ー
2	対象区域	ー
3	区域の課題	• 「特に夏場においては「日本一の暑さ」により、まちの快適性が損なわれることで外出する人が減少し、まちの活性化の阻害要因となっている」ことを中心課題として整理。 • 課題の構成要素として、「都市環境」「モビリティ」「スポーツ」分野を位置付け。
4	区域の目標	• 課題に対応する大目標を設定したうえで、大目標を因数分解することで中目標、小目標を設定し、目標から施策までのつながりを整理。
5	KPIの設定	• スマートシティ戦略に基づき、大目標及び小目標に対して達成状況を評価する定量的指標を設定。
6	先進的技術の導入に向けた取り組み内容	• 目標の達成に向けた方向性を示す、取組の全体像を記載。 • 「都市環境」「モビリティ」「スポーツ」の３分野に関し、分野ごとの目指す姿及び個別の施策や実装に向けた課題を整理。
7	データ利活用の方針	• 中核都市OSとサービスシステムで機能分担する「分散型都市OS」とし、都市OSのスリム化を図ることで、初期投資及び運営コストの適切化を実現する方針。
8	スマートシティ実装に向けたロードマップ	• 2021年度以降取り組み内容の具体化及び実証実験の実施を行う方針。
9	構成員の取組体制	• リファレンスアーキテクチャを踏まえ、協議会内の役割として部会の設置を検討。
10	持続可能な取組とするための方針	ー
11	横展開に向けた方針	ー

区域の課題

- 「特に夏場においては「日本一の暑さ」により、まちの快適性が損なわれることで外出する人が減少し、まちの活性化の阻害要因となっている」ことを中心課題とし、当該課題の構成要素として、「都市環境」「モビリティ」「スポーツ」分野を位置付け。

【更新のポイント】

- ✓ 熊谷市の特徴である「日本一の暑さ」に着目して、課題を整理
- ✓ 特に解決すべき課題として3領域を提示

熊谷市の抱える問題

人口が減少傾向にあり、地域内における消費の減退や、生産年齢人口の減少による地域経済の停滞が懸念

一要因

暑さに起因する様々な課題

特に夏場においては「日本一の暑さ」により、まちの快適性が損なわれることで外出する人が減少し、まちの活性化の阻害要因となっている

モビリティの課題

公共交通の屋外での待ち時間が長いことによる来街者の負担

- 高齢者や子育て世代などのあらゆる世代の市民や来街者の移動が暑さにより制限
- ラグビーなどの試合開催時などの非日常利用時における、暑い中での待ち時間の長時間化して来街者の負担が増加

都市環境の課題

暑さによる住環境の悪化、日常的な外出行動の制約

- 暑さにより熱中症による救急搬送者数が増加傾向
- 暑さの影響により市民の外出が制約
- 屋内の環境を保つため、エアコンの使用などによるエネルギー消費が増加

スポーツの課題

市外からの来街者の熱中症リスク、スポーツ観戦後のまちなか回遊性

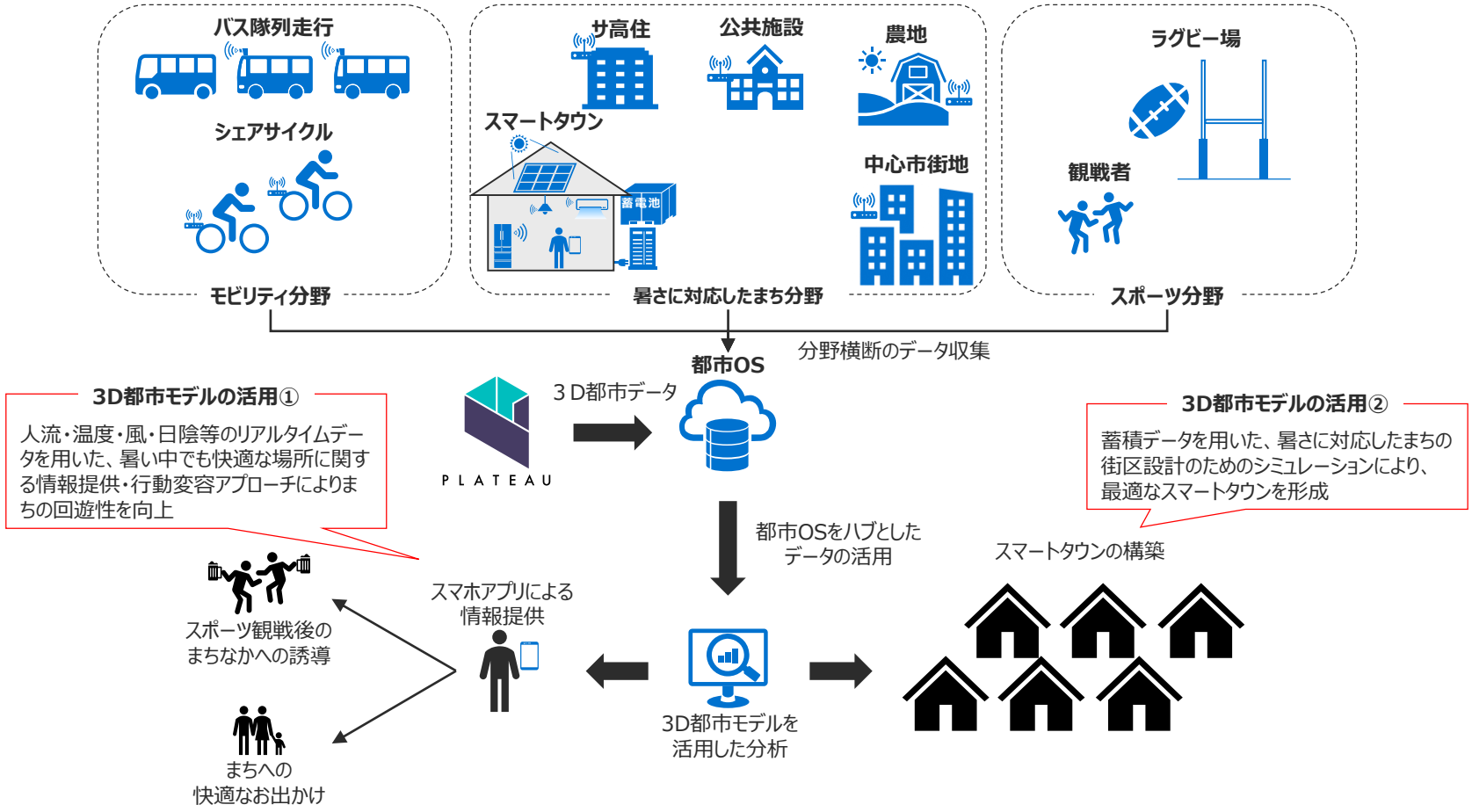
- 市外からの来街者の高い熱中症リスク
- スポーツ観戦後に快適に過ごし回遊することのできる仕組みの欠如

区域の将来像

【更新のポイント】
- ✓「暑さ」という課題設定に対応した将来像を設定
- ✓ 各分野の関連性や、データ活用イメージを記載

「暑さに負けず、快適に、楽しく、いきいきと暮らせるまちの形成」

- 暑い中でも快適に、楽しく、いきいきと暮らせるまちを形成することで本市の活性化・魅力向上を実現し、人口減少の抑制を目指す。
- 分野横断のデータ活用により、スマホアプリを活用したなかの快適なスポットの紹介や快適時間でのクーポン配布による行動変容、モビリティの充実、スポーツイベント実施時の人々のまちへの誘導等のスマートシティ施策を展開することで将来像を実現する。



スマートシティ戦略

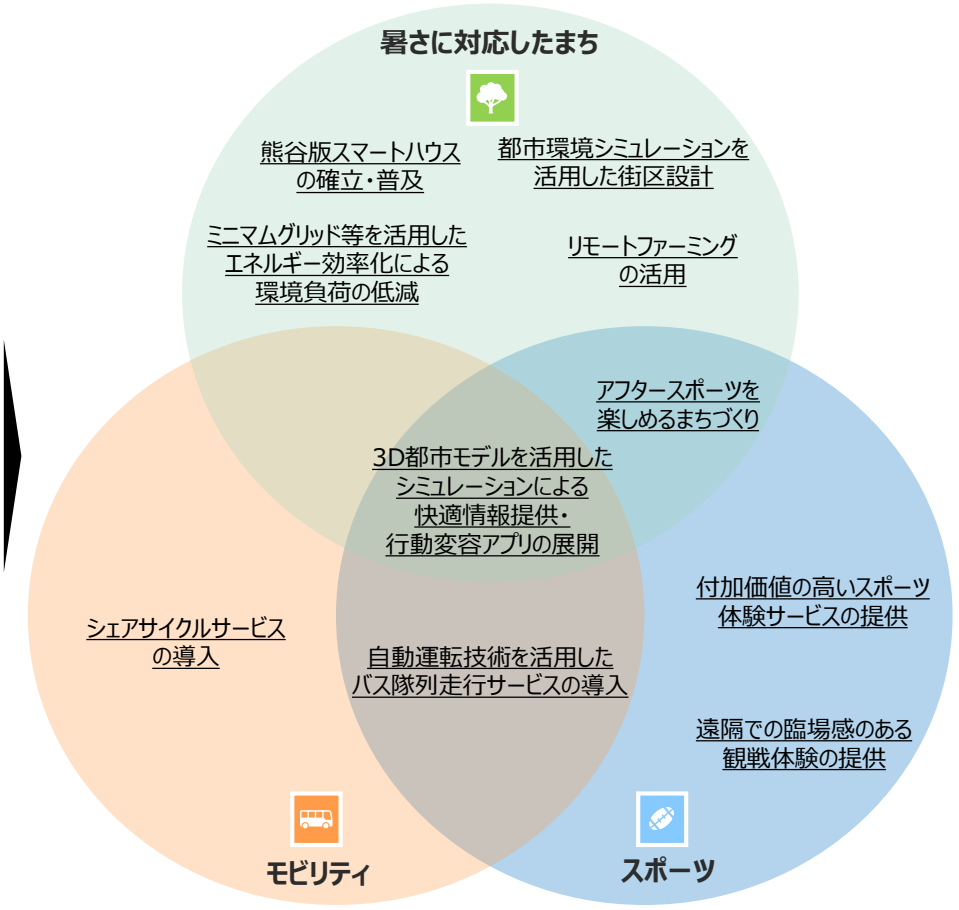
- 「日本一の暑さ」に対応したまちの活性化という課題に対応させ、「暑さに負けず、快適に、楽しく、いきいきと暮らせるまち」を大目標として設定。
- 大目標に対して中目標、小目標に分解したうえで、小目標に対応する「暑さに対応したまち」「モビリティ」「スポーツ」の３分野で構成される施策を設定。

【更新のポイント】

- ✓ ｽﾏｰﾄｼﾃｨﾘﾌｧﾚﾝｽｱｰｷﾃｸﾁｬに準拠し、課題・目標・施策を整理
- ✓ 課題に対する形で、施策を３分野に絞り込み・

課題	大目標	中目標	小目標
「日本一の暑さ」に対応したまちの活性化	暑さに負けず、快適に、楽しく、いきいきと暮らせるまち	暑い中でも快適な移動が可能なモビリティ環境の構築	暑い時期のバス待ち時間の短縮
			状況に応じて選択可能な移動手段の確保
モビリティの課題		暑い中でも健康で快適に過ごせるまちの形成	暑い時期の回遊性の向上
			安全・安心で利便性の高い住環境の形成
都市環境の課題			効率的に暑さに対応するまちの形成
			安全で生産性の高い農業環境の実現
			エネルギー効率向上による環境負荷低減
スポーツの課題		暑い中でも安全にスポーツを楽しむことのできるまちの形成	熱中症リスクを回避しながらスポーツを楽しめる環境
			スポーツをきっかけとした来街者の増加

施策

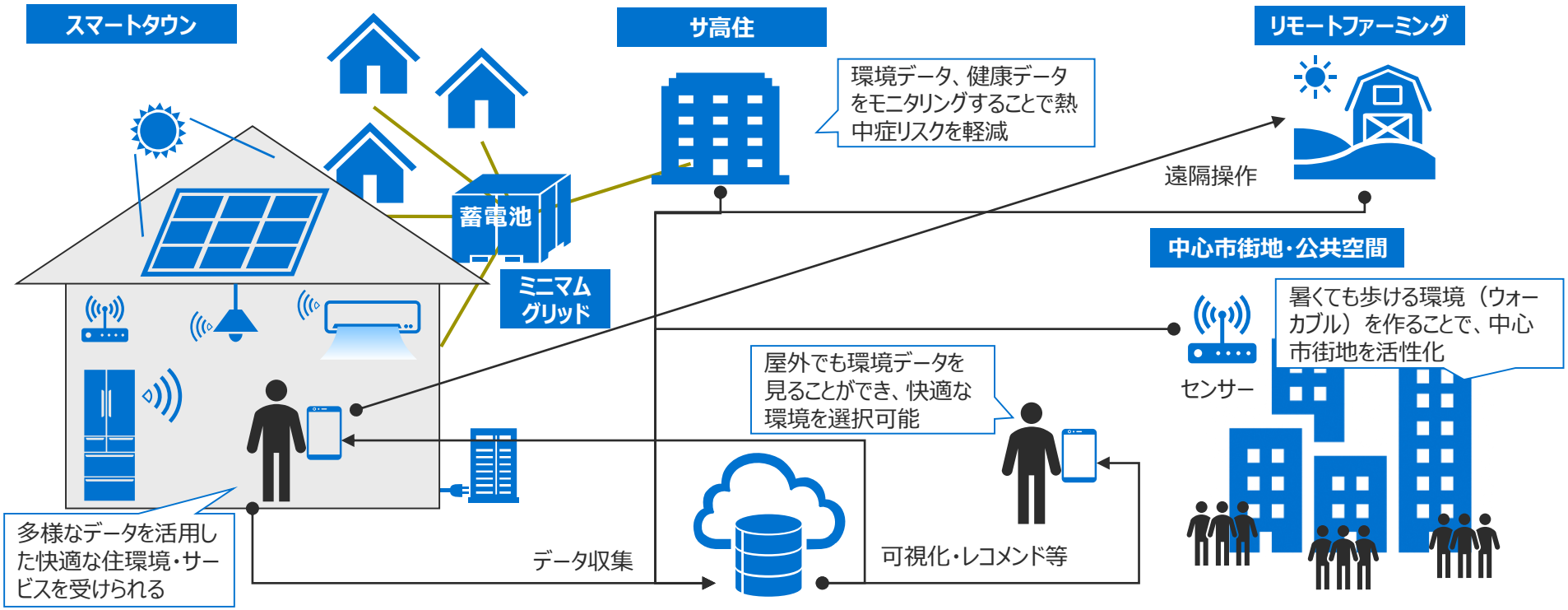


取組①　暑さに対応したまち

【更新のポイント】
- ✓ 取組地域を中心市街地・公共空間にも拡大
- ✓ データの収集・活用イメージを記載
- ✓ サ高住・エネルギーに関する取り組みを追加・具体化

「暑い中でも健康で快適に過ごせるまちの形成」

① 3D都市モデルを活用したシミュレーションによる快適情報提供・行動変容アプリの展開
② 暑さに対応して快適に過ごすことのできる熊谷版スマートハウスの確立・普及
③ 都市環境シミュレーションを活用した街区設計
④ サービス付き高齢者住宅を拠点としたスマートな健康サービスの提供
⑤ ミニマムグリッド等を活用したエネルギー効率化による環境負荷の低減
⑥ スマート農業IoTセンサーを活用したリモートファーミング



取組②　モビリティ

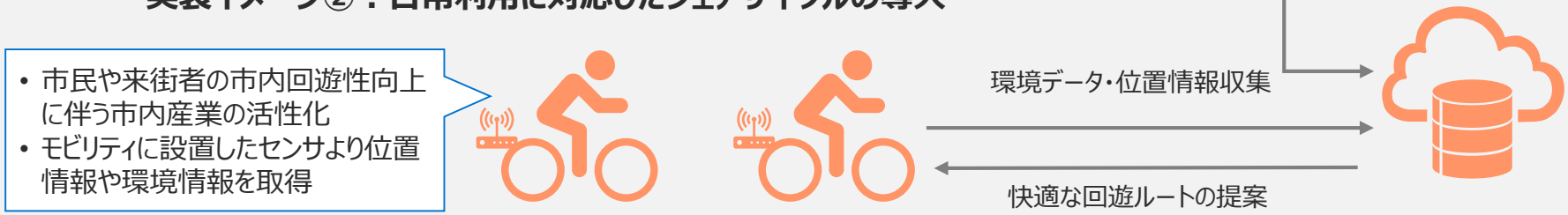
【更新のポイント】
- ✓ シェアサイクルの取組を追加
- ✓ データの収集・活用イメージを記載

「暑い中でも快適で暮らしやすいまちの形成を実現する地域公共交通の構築」
①　自動運転技術を活用したバス隊列走行サービスの導入
②　電動アシスト付き自転車を活用したシェアサイクルサービスの導入

実装イメージ①：交通需要に対応したバス隊列走行の導入



実装イメージ②：日常利用に対応したシェアサイクルの導入

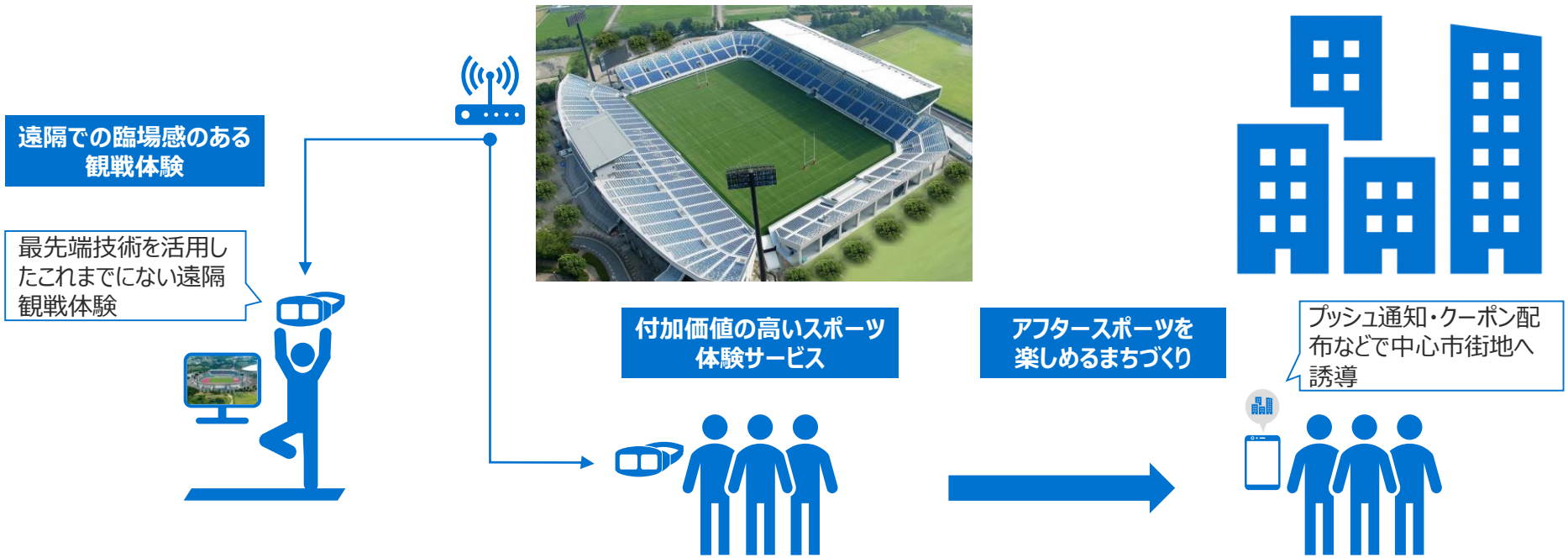


取組③　スポーツ

【更新のポイント】
- ✓「スポーツを核とした魅力向上」を掲げ、施策を再検討
- ✓ データの収集・活用イメージを記載

「暑い中でも安全にスポーツを楽しむことのできるまちの形成とスポーツを核とした魅力向上」

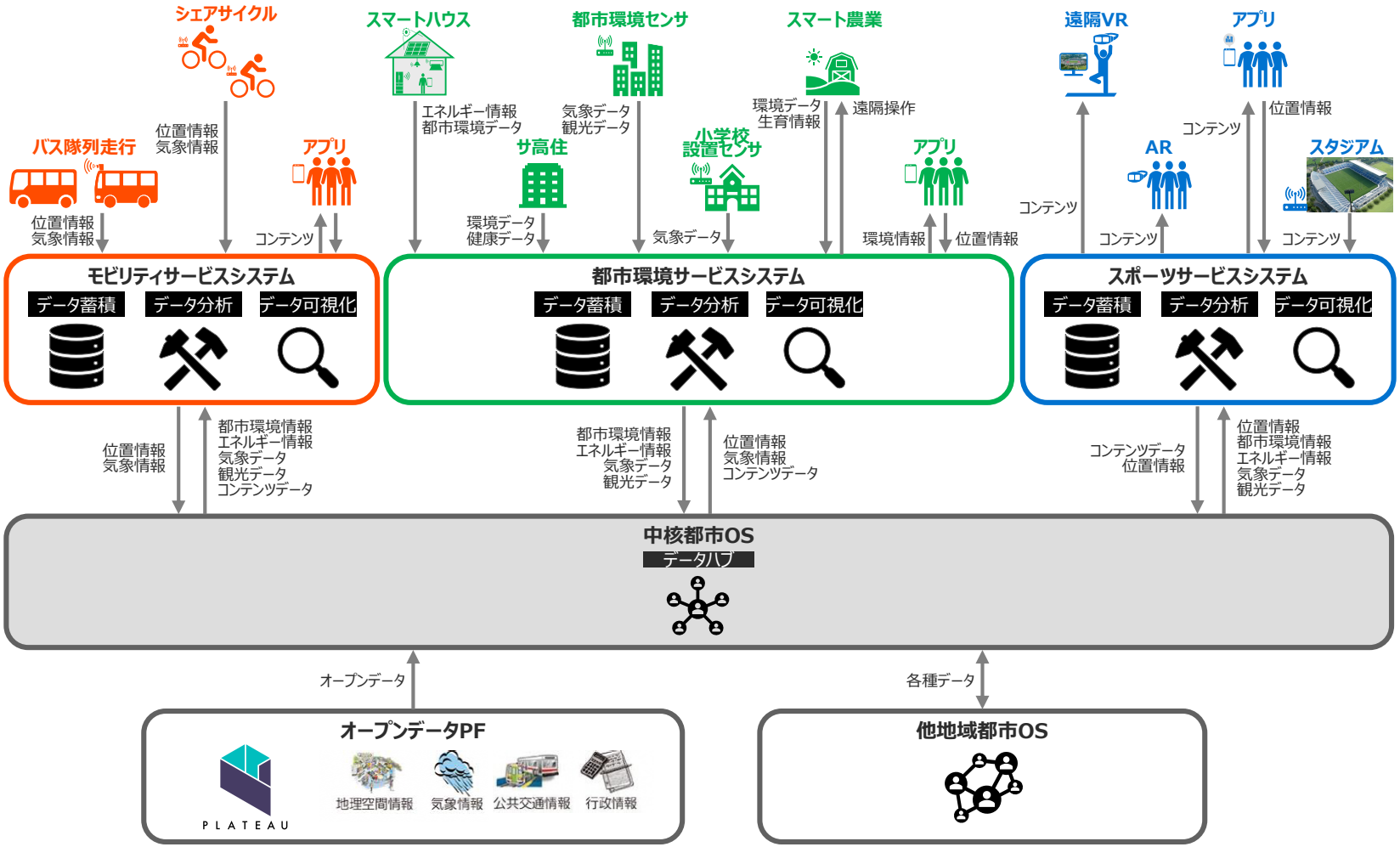
① 遠隔での臨場感のある観戦体験
② ARデバイスや５G等を活用した付加価値の高いスポーツ体験サービス
③ アプリケーションの活用によるアフタースポーツを楽しめるまちづくり



データプラットフォームの整備方針

【更新のポイント】
- ✓ スマートシティリファレンスアーキテクチャに準拠した検討を行い、整備方針を具体化

- 中核都市OSとサービスシステムで機能分担する「分散型都市OS」を構築することで、中核都市OSのスリム化を図り、初期投資の効率化・最適化及び運営コストの適切化を実現。
- オープンAPIを介して、中核都市OSと各種サービスシステムが連携することを想定。



実装に向けたロードマップ

- 令和３年度：分科会における取組の詳細化、行動変容アプリに関するニーズ把握・実証実験を実施
- 令和４年度：令和３年度の詳細検討を踏まえた実証実験を実施
- 令和５年度以降：各分野のスマートシティの実装を目指す

実施項目		令和３年度	令和４年度	令和５年度	令和６年度	令和７年度
暑さに対応したまち	中心市街地・モビリティ・スポーツと連携した行動変容アプリ	ニーズ把握 → サービス実証	アプリ構築	実装・運用		
	熊谷版スマートハウスの確立・普及	熊谷版スマートハウスの標準検討	モデル地区の整備・データ活用実証	市内新設・既存住宅へのモデル展開（実装）		
	都市環境シミュレーションを活用した街区設計	街区設計手法の検討	街区設計手法を活用したモデル地区の整備	市内新設住宅へのモデル展開（実装）		
	サービス付き高齢者住宅を拠点としたスマート健康サービス	データ活用検討 適地選定		実証		実装
	ミニマムグリッド等を活用したエネルギー効率化	熊谷版スマートハウスの標準検討	モデル地区での実証	他分野連携・データ活用実装		
	リモートファーミング	実装 データ活用実証	他分野連携・データ活用実装			
モビリティ	バス隊列走行	アクセス環境調査 ルート検討	技術実証	ビジネス実証		実装
	シェアサイクル	実装 データ活用実証	他分野連携・データ活用実装			
スポーツ	遠隔スポーツ	ニーズ把握 サービス検討	技術・サービス実証	実装・運用		
	高付加価値スポーツ観戦	ニーズ把握 サービス検討	技術・サービス実証	実装・運用		
	アフタースポーツを楽しめるまちづくり	ニーズ把握 → 技術・サービス実証	アプリ構築	実装・運用		
都市OS構築		方針検討	設計	構築	実装・運用	

都市マネジメント（推進体制）

- 「官・民・学」が連携し、「熊谷スマートシティ協議会」を設立。
- 推進主体の機能として、「全体会」「推進事務局」「ルール部会」「ビジネス開発・運営部会」「都市OS運営部会」を設置。

【更新のポイント】

- ✓ ｽﾏｰﾄｼﾃｨﾘﾌｧﾚﾝｽｱｰｷﾃｸﾁｬに準拠する形で、取組体制を再検討
- ✓ 推進主体内の役割分担を具体化

サービス利用者（受益者）
市民、来街者、熊谷市

アドバイザー
くまがや市商工会、熊谷商工会議所、群馬大学、国土交通省、埼玉県

サービス提供者
学研ココファン、 熊谷市、国際十王交通、コミュニティネット、自然電力、東京ガス、NEC、パナソニックライフソリューションズ社、 PLT、NTT東日本、富士通、ベジタリア

監視・チェック者
議論の熱度により設定を協議

推進主体（＝熊谷スマートシティ推進協議会）

	役割		メンバー
全体会（スマートシティ全体統括・戦略策定）	報告（モニタリング、事業状況）、承認・決定（ルール、全体計画、決算等に係る事項）		全会員
推進事務局（組織運営・管理、マーケティング・周知広報）	全体会の運営、全体計画の検討、モニタリングの実施・とりまとめ、情報発信・市民対話、各種窓口		熊谷市
ルール部会（ルール策定・管理）	協議会規約の検討、スマートシティサービス利用規約の検討、データ取り扱いルールの検討		熊谷市、ビジネス開発・運営部会
ビジネス開発・運営部会（ビジネス開発・運営）	ビジネススキームの検討・調整・決定	暑さに対応したまち分科会	学研ココファン、熊谷市、コミュニティネット、自然電力、東京ガス、パナソニックライフソリューションズ社、PLT、NTT東日本、ベジタリア
		モビリティ分科会	熊谷市、パナソニックライフソリューションズ社、JR東日本
		スポーツ分科会	熊谷市、パナソニックライフソリューションズ社
	事業状況の調査・報告		分科会メンバー等適宜実施
都市OS運営部会（都市OS管理・運用、アセット及びデータ管理・運用、セキュリティ）	都市OSの運営・管理、アセット及びデータ管理・運用、セキュリティ		熊谷市、NEC

投資家・データ等提供者
埼玉縣信用金庫、等

※各枠内五十音順

今後の課題

- スマートシティ実行計画書の更新の検討に当たっては、スマートシティサービスの提供者となることが想定される協議会会員を対象にヒアリング調査を実施のうえ、取組全体像や個別分野の取組方向性をとりまとめた。
- 現時点において実行計画書の更新版はあくまでも案であり、本案をたたき台としてさらなる具体化を行ったうえで、令和３年度の国交省スマートシティモデル事業等に申請を行う必要がある。
- なお、今後の検討詳細化等に応じて実行計画書は適宜見直し・更新していくことが想定される。

1 **分野別取組内容**	✓ 個別のサービス内容、役割分担、データの取得・活用方法、都市OSとの連携方法について詳細化が必要
2 **都市OS**	✓ 分散型都市OSのあり方について、必要十分な機能や構築方法について検討詳細化が必要
3 **資金計画**	✓ 協議会として必要となる、実証実験費用や都市OSの構築・運用費用の把握が必要 ✓ 当該費用に充てる資金の調達方法、補助事業の活用について検討が必要
4 **実証実験**	✓ 実証実験内容の具体化（目的・方法）及び係る費用の算出 ✓ 実証実験の実施主体・連携事業者の決定が必要

③　令和３年度の市の予算化事業

「スマートシティ」スマートタウン事業化検討調査

■事業概要

本市の抱える「人口減少」、「夏の暑さ」などの諸課題を、ＩＣＴ等の新技術の活用により、計画、整備、管理・運営等の都市マネジメントの最適化を図ることで、人が集い、安全・安心で快適に生活できる「持続可能な都市（スマートシティ）」の実現に向け、地域に最適な熊谷型スマートハウスの検討、スマートタウン適地の選定及び事業化検討調査を実施します。

調査事項

①熊谷型スマートハウスの検討

～「夏の暑さにも対応できる」地域にあった快適な住まいのあり方を提案します～

本市の気象データをもとに、スマートハウスの建物の仕様、間取り、配棟計画等を検討するほか、室内環境データ、使用エネルギー量等の住宅最適化のために必要となるデータの収集方策を検討します。

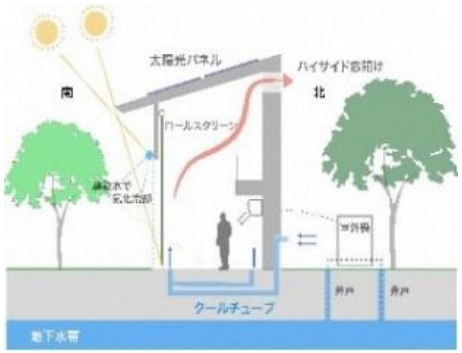
②スマートタウン適地の選定

～地域にあった新しいまちづくりを実践するため適地を選定します～

コンパクトシティを念頭に「暑さにも対応」可能な快適な暮らしを提案するため、事業化に適する市内の候補地を選定します。

適地選定にあたっては、国土交通省3D都市モデルデータ、市内気象データ及び民間事業者のノウハウを活用するとともに、市外からの転入も促す環境にも配慮した魅力的な街区形成を目指します。

熊谷型スマートハウス　イメージ





「スマートシティ」熊谷スポーツ文化公園アクセス環境調査

■事業概要

令和２年度のバス隊列走行実証実験結果（乗用車型）を踏まえ、システムの技術的な課題や法令等の課題を調査・研究し、熊谷駅・熊谷スポーツ文化公園間のアクセス改善、自動運転に適した道路構造や路線沿線のまちづくりについて調査研究します。

調査事項

令和２年度の実証実験を受け、バス隊列走行に係る技術面での実現性は確認できた。さらに、道路側からサポートを受けることで実装がより早まるとの考えから、自動運転に適した道路構造や信号設備、停車位置、右左折箇所へのビーコンの設置、有効なアクセスルートの選定等、道路環境の在り方に関する検討調査を行います。



案1　ラグビーロード
距離：約４KM
自動運転難易度：高

案2　谷郷線経由
距離：約10KM
自動運転難易度：中



④　国土交通省スマートシティ先行モデル事業へ応募する実証実験案

実証実験案　（仮称）まちなか環境アプリのサービス実証

1．実証実験の目的（何を明らかにしたいか）

①「暑さに対応したまち」への利用者ニーズの把握により、活用されるアプリやサービス内容を具体化する。

②「暑さに対応したまち」の実現に向け、（仮称）まちなか環境アプリのサービスによる効果や課題・改善点を把握し、アプリの本構築や取得するデータの検討材料とする。

2．実施概要

項目		内容
1 リビングラボ	Task1	✓「暑さに対応したまち」実現に向けたサービス及び実証実験に参加する市民・利用者を募集し、サービス内容を議論（ＷＳ等）してサービス内容に反映。 ✓ 実際にモニターとして（仮称）まちなか環境アプリサービスの利用をし、フィードバックを行う。
2 都市環境データセンシング	Task2	✓ 中心市街地など限定的な空間を対象として屋内（公共施設）及び屋外の都市環境データを仮設のセンサーによりセンシングする。 ✓ シェアサイクルに仮設のセンサーを設置し、位置情報及び都市環境データをセンシングする。
3 データ集約・統合	Task3	✓ 中心市街地及びシェアサイクルによりセンシングしたデータをサーバーに集約する。
4 データ分析・可視化	Task4	✓ 集約したデータ及び3D都市モデル（PLATEAU）のデータを活用し、都市環境を分析（シミュレーション）する。 ✓ 分析結果のデータを（仮称）まちなか環境アプリ等を活用して可視化する。
5 サービスの提供	Task5	✓ 分析・可視化した都市環境を（仮称）まちなか環境アプリを通じて利用者に情報提供する。 ✓ 都市環境の状況により、外出のレコメンドを行うなど、行動の変容を促す情報提供を行う。
6 効果把握	Task6	✓ サービスの利用者がどのような行動を行ったか、位置情報・人流データを取得・分析することで効果把握を行う。 ✓ モニターへのアンケート調査により効果やサービスの改善点・課題を把握する。

実証実験案　（仮称）まちなか環境アプリのサービス実証

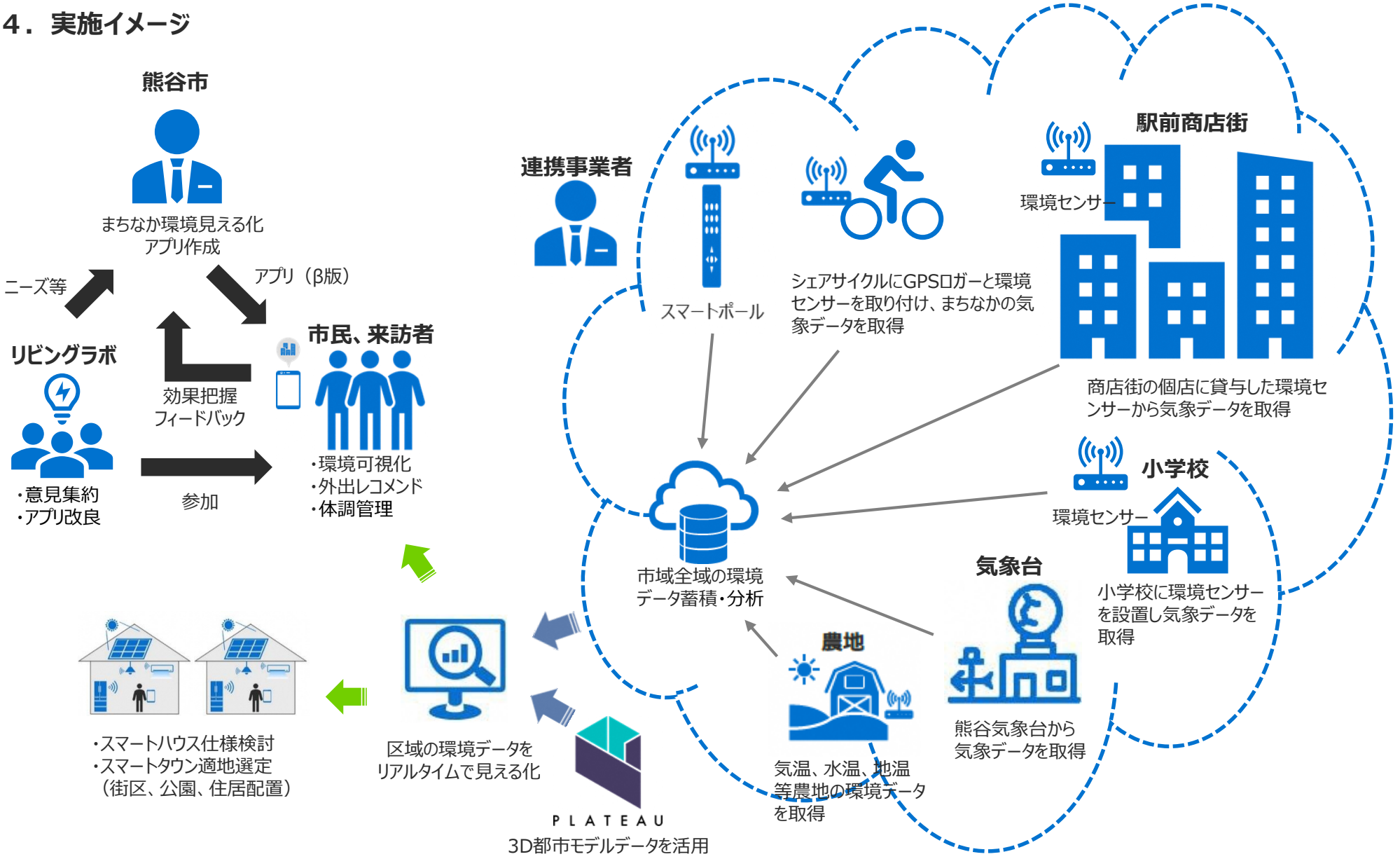
3．役割分担

	役割	費用負担
熊谷市	✓ リビングラボ運営 ✓ 行政保有データ提供（熊谷気象台データ、市内30箇所熱中症警報データ、防犯カメラデータ（人流、日照状況）、等） ✓ 環境センサーの調達・貸与 ✓ （仮称）まちなか環境アプリの用意	✓ リビングラボ運営費 ✓ 実証実験経費（環境センサーの調達費、（仮称）まちなか環境アプリ利用料、実証実験委託費）
連携事業者	✓ 実証実験計画の検討 ✓ 環境センサーの活用 ✓ シェアサイクルでのデータ収集の協力 ✓ データ収集・統合 ✓ データ分析・可視化 ✓ （仮称）まちなか環境アプリ提供・運用	✓ 必要となるアセットの提供・協力 ✓ 既存サービスの提供（データ収集・統合費用、データ分析・可視化費用、（仮称）まちなか環境アプリ費用）※ ✓ 実証実験に係る人件費※
市民	✓ リビングラボへの参加（ディスカッション、実証実験モニター参加） ✓ （仮称）まちなか環境アプリのダウンロード	✓ アプリ利用の通信料

※　要協議

実証実験案　（仮称）まちなか環境アプリのサービス実証

４．実施イメージ



実証実験案　（仮称）まちなか環境アプリのサービス実証

５．実施スケジュール（案）

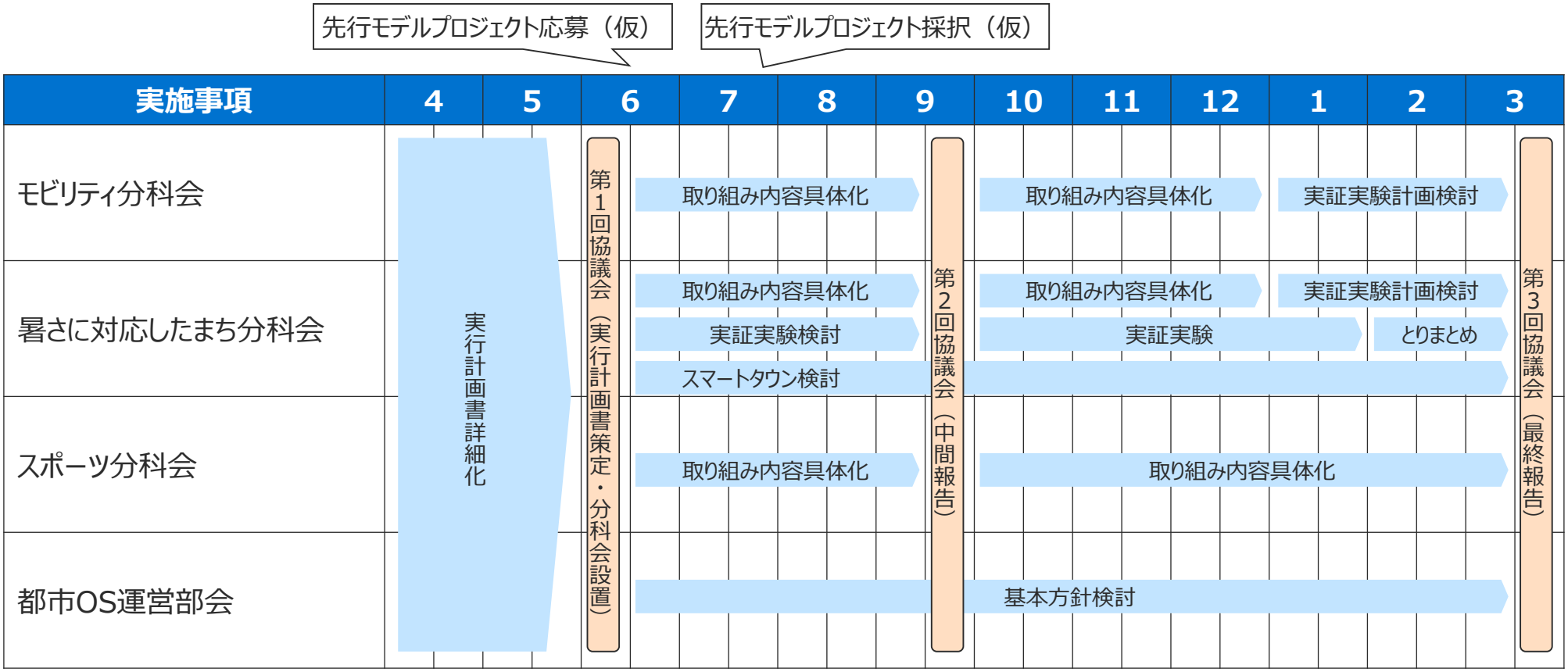
先行モデルプロジェクト応募（仮）　先行モデルプロジェクト採択（仮）

実施事項	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
実証実験計画の検討	■	■	■	■								
リビングラボによる意見収集					■	■						
実証実験計画の更新							■					
連携事業者の決定							■					
実証実験準備												
環境センサー調達等							■					
地元調整							■	■				
アプリケーション構築							■	■	■	■		
シミュレーション構築							■	■	■	■		
データ蓄積・分析環境構築							■	■	■	■		
実証実験実施											■	
効果把握・とりまとめ												■

⑤　令和３年度の取組

令和３年度スケジュールイメージ

- 令和３年６月頃と想定される4府省合同のスマートシティモデル事業公募への応募を見据え、取組内容の具体化等の検討を引き続き行う。
- 令和３年６月に第１回協議会を開催し、実行計画書や応募書類の承認を行うとともに分科会の設置を想定。
- ６月以降においては、各分科会にて実行計画書に基づき取り組み内容の具体化を行い、令和３年度中には実現を目指すサービス像、実装に向けたロードマップ、及び令和４年度における実証実験計画を策定する。



⑥　閉会